



ユネスコスクール便り

No.125

令和5年3月10日
大牟田市1初コスクール
担当者通信

つながりを大切にし、
かかわりを深める児童生徒の育成

各校の特色ある実践事例を紹介します！

11 持続可能なまちづくり 13 気候変動に脅かされる生態系 **自分達の命と生活を守るために** みなと小学校

みなと小学校では、令和2年7月の豪雨災害被災の経験をもとに、海洋教育とリンクした「防災・減災教育」を推進しています。5年生では、自分や家族、地域の人々の命・健康を守る「防災バッグ」について学習を行いました。

大人2名・本人・幼児1名の4人家族を想定して、バッグの大きさや重量の制限を基にバッグの中身を検討したり、「命を守る」、「健康な生活の確保」「情報の収集」等、目的に応じた中身の優先順位を考えたりしました。この学習を受けて、さらに地域に向けて、防災バッグ等の災害の備えに向けた啓発活動や、その必要性を訴える活動を行っています。



たくさんの道具の中から、優先順位を考えてバッグにつめていく児童

3 持続可能な社会を築く 11 持続可能なまちづくり **「つながり合う心」** 平原小学校

平原小学校では、「地域とのつながり」をキーワードにESDを推進し、中学年では福祉学習に取り組んでいます。4年生は、車椅子の方や視覚障がいの方、その介助をされている方と交流したり体験したりしたことを通して、これからのまちづくりについて考えました。また、音の鳴るボールを転がして打ち合うサウンドテーブルテニスにもチャレンジしました。耳を澄まし、音だけを頼りにボールの行方を探るのはとても難しく、目が見えずともタイミングよく打ち返されるゲストティーチャーの方の様子を見て、子ども達は驚いていました。



サウンドテーブルテニスに挑戦！

4 質の高い教育をみんなに 17 パートnership for sustainable development **交流及び共同学習を通して** 大牟田特別支援学校

本校では、平成24年度から、新潟県見附市立見附特別支援学校との交流及び共同学習を行っています。今年度は、学期毎に小学部、中学部、高等部が作品の交流を行いました。交流を重ねるごとに増えていく見附特別支援学校の友達の作品を見て、人との関わりに喜びを感じた児童生徒達は、周囲の人達と進んでつながろうとする意欲を高めています。

障がいのある児童生徒達は、同年代の友達と接する機会がどうしても少なくなります。このように他者と関わる機会を位置づけることは、社会性を養い、好ましい人間関係を育成する上でとても重要です。これからも充実した交流を続けていきたいと思ひます。



見附特別支援学校の作品(上)と大牟田特別支援学校の作品(下)

17 パートnership for sustainable development 11 持続可能なまちづくり **ふるさとのよさ 再発見!** 上内小学校

上内小学校では、地域の方とのふれあいや協働を通して、ふるさとの誇りをもち、よりよい自分を創る子どもを育成しています。6年生では、総合学習「ふるさとをいつまでも」で上内の魅力について調べる活動に取り組んでいます。これまで、地域の方と一緒に田植えや稲刈りをしたり、大牟田の文化財や歴史を知るために、市の文化財室の方とフィールドワークをしたりしてきました。これらの探究活動を通して、地域の方の努力や願いを知り、ふるさと上内への愛着を高めることができました。今後、上内の自然や環境を生かした農業や持続可能なまちづくりについて学習を進めていきます。



児童のフィールドワークの様子

